

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 日田 高等学校	
学校教育目標	志高く、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい人間を育成する			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・校長のリーダーシップの下、明確な学校経営ビジョンが策定され、全教職員に共有されている。 ・進学校としての特性やSSH事業の取組などが日田高校を特徴付けており、日田高校の魅力の発信に取り組んでいる。ただし、今後、より一層の魅力の明確化と発信を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「剛健・積極・明朗」のもと、「日田高RGB」の資質・能力を身につけた生徒の育成を目指した学校教育目標、重点目標を設定し、全教職員に共有を図り、取組を行っている。 ・日田高校の魅力、良さを再認識し、情報発信を行い、地域選ばれ、愛される学校づくりを目指す。
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・令和2年度の学校評価（年間評価）に基づき、自己評価及び課題説明に取り組んだことが見られる。 ・それを受けて、SSHの考え・取組を全ての教科に波及する仕組みづくり、また中学生だけでなく、小学校5、6年生にも日田高の学びを紹介する機会を設けるなど改善策を計画的に実行しようとする姿は評価できる。 ・得られた結果に基づき、さらに高い重点目標を設定している。校務分掌も機能しており、組織的な運営ができているため、目標の達成が十分見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の振り返りの実施による行事の精選、業務の精選や見直しを短期のPDCAを回すことで実施していく。また、行事等の実施においても教員の業務内容の軽減、公正化に努めていく。 ・令和3年度の学校評価(年間評価)を受けて、成果のあった取組は継続、発展をさせ、課題となった点については、年度初めより解決に向けた具体的な取組を実施していく。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・学校HPを通して、学校行事に加えてSSH事業の取組、授業研究会の様子などを発信できており、学校のアピールにつながっている。また、感想等を収集し課題の発見にも努めている。 ・小中学生に対して、出前授業や卒業生による出身校訪問などの取組に工夫が見られるが、安心や安全、教員と生徒の関係や、生徒同士の良好な関係を生み出す雰囲気などの生徒が感じている日田高校のよさを発信することがより一層期待される。 ・外部の人材を活用した取組を継続するなど、更なる開かれた学校づくりを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日田高校のよさの発信のため、日田高だよりやSSHナウをさらに充実させ、来年度も計画にしたがって発行していく。 ・オンラインのよさを生かし、ホームページだけでなく動画を配信するなど魅力を発信できた一方で、動画の視聴数や閲覧数をさらに伸ばす必要がある。リアクションを的確に把握し、より魅力あるホームページやちらしを作成し、広報活動を強化したい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてP D C A サイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・ICTを活用した授業により、生徒の理解力の向上に努めている。 ・生徒の授業態度も落ち着いており、一生懸命に授業に取り組んでいる姿が見られる。 ・授業に対する生徒の評価はかなり高い。 ・授業アンケートを通して、「振り返り」が課題であることが明確になったので、今年度の授業改善のテーマとして「振り返り」を重点化して導入した点は評価出来る。 ・本校独自のRGBルーブリックは、目指すべき授業の姿が明確であり、授業改善の取組として評価できる。 ・また、日田高RGBを取り入れた授業改善が進んでいる。今後は、日田高RGBに対する生徒の理解度をさらに向上させることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の授業を行う中で、「理解できる」環境づくりを目指して継続して研修や研究授業を実施していく。 ・ICTの有効活用についても研究を進めていく。特に、長期欠席生徒への授業動画配信などを本格的に実施していく。 ・RGB意識調査において、波及力に係る「地域や世界の科学技術の向上に貢献したい」のポイントを重点的に伸ばすため、SSHの外部連携の取組をよりSDGsの視点につながるようにし、キャリア形成に良い影響を与えるよう、各探究活動を自分ごとと捉える取組を強化する。 ・学力的不安要素が増え「難関志望の志」が徐々に薄まる傾向を食い止めるべく、「平素の基礎学力の底上げ」に全体で推進していく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・計画的な個人面談や人間関係プログラムづくりが実施されている。また欠席の多い生徒へのケース会議実施など教育相談についても充実している。 ・生徒が先生に相談しやすい環境作りができていることも高く評価できる。 ・ケース会議やスクールカウンセラー等を活用し、生徒の状況に合わせた対応ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定例の保健会議で生徒情報を共有し、ケース会議の開催やスクールカウンセラー等を活用し、早期に対応できるよう、教育相談との連携を図る。 ・全学年で人間関係づくりプログラムを実施し、生徒自身がよりよい人間関係を構築できる取り組みを継続する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・生徒が主体的に通学路の危険箇所の地図を作成するなど、安全管理に対する意識は育っている。 ・自転車安全運転講習会や防災避難訓練を実施し、生徒の安全・安心を確保する取組がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会組織の各種委員会との連携を深め、生徒の自主性を活かした「自治・自制心・規範意識の向上」につながる取り組みを実践する。特に、生徒の交通安全に関連して、引き続き交通風紀委員とともに自転車通学生のステッカーと施錠の検査を実施したり、自転車整備を喚起するなど、日頃から安心安全な登下校の意識を高める。 ・登下校時の保護者の自家用車送迎 について、PTAと連携を密に図るとともに39メールや学校HPを活用するなど、年間を通じて未然に事故を防ぐために情報発信を継続していく。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務時間の適正化を図る取組を、さらに強く推進し、業務過多の教員をなくす努力が求められる。 ・新型コロナウイルス感染症のために、先生方の業務が増えているが、行事の目的をもう一度見直し、縮減する良い機会として精選に取り組むことが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「費用対効果」を考え「やらない選択」が今後も必要である。また「次年度に検討」ではなく、「行事の実施→アンケートによる検証→改善の提言」がスピード感と確実性をもって行う。 ・業務量の格差を可能な限り平準化するよう、個々人の意識を高めていくよう働きかける。あわせて、職員の負担軽減を図るためにできることを模索していく。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○定員確保に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員確保の問題については、原因の分析を一層進めるとともに、解決に向けて一層の取組強化が求められる。 ・小中学校への説明やホームページへの掲載だけではまだまだ魅力を伝えきれていない。地域に向けて「真の日田高校のよさ」を発信することが求められる。 ・授業に対する生徒の意識や授業内容の理解度の向上に向けた取組のさらなる充実が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日田高だより」については、今後も行事が中止やオンラインになる中で、在校生からのメッセージなどを通じて日田高の日常生活の中での「魅力」も発信していく。また「日田高だより」に学校HPのQRコードを載せてHPの閲覧数増加に結びつける。 ・生徒が減少してきている今、日田高校の魅力、真の日田高校のよさを全校一丸となって伝え、小中学校の保護者、先生に理解してもらえるようにする。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、落ち着きのある、安定した雰囲気の高校が作られていることから、学校経営に関する取組は大いに評価出来る。 ・授業改善については、SSH事業の考え方をその他の科目の授業に応用するなど、適切な取組が見られる。 ・授業評価アンケートや学校HPの発信など、結果に基づく分析及び改善の取組にさらなる改善の余地があると考えられる。そのためにも、日田高校のよさ・魅力を見直して、地域に発信することが求められる。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標提示や振り返りの時間の設定が定着してきており、授業アンケートの結果からも授業改善は推進されてきていると考えられる。今後は、ICTの活用を通して、個別最適化の学びや授業と家庭学習とを結びつける手法を確立し、授業内容の理解力の向上、学力の定着につなげていきたい。 ・育成したい力を「日田高RGB」として8つにまとめ、今後もその育成に努めた。年3回の意識調査、アンケートを踏まえ、探究する力(R)、基盤となる力(B)については、順調に成果をあげている。今後は、波及させる力(G)つまり、地域や社会への発信力、実践力の意識向上、育成に力を入れていきたい。 ・次年度も引き続き、中学校訪問や広報誌の更なる充実、行事のオンタイムでの情報発信、動画、ビデオの配信など、計画的かつ積極的に行い、学校の広報活動には力を入れていきたい。 			